令和 6 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000608	事業の開始年月日	平成29年11月30日
		指定年月日	令和5年12月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター平戸		
所在地	(〒244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1029-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和6年12月30日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※食事はレトルト食品類を極力使わず職員手作りの家庭料理を提供します。

※イベントは季節を感じていただけるよう時期様々な催しを行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年3月14日	評価機関 評価決定日	令和7年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇手作りの食事へのこだわり

・利用者の事業所内での最大の楽しみは食事であり、利用者の意見や好みに迅速に対応するため、献立を業者に任せることなく手作りで食事を提供することにこだわっている。食事はこれまで蓄積してきたレシピを基に利用者の要望を取り入れている。毎月特別食の日を設けてひな祭り、お彼岸、七夕等の季節に合わせた食事を出して、利用者が思い出話をすることもある。今年の節分の時は、職員が鬼に扮装して利用者を驚かせた。特別食の様子は写真に撮り家族にも知らせている。

【事業所が工夫している点】

◇利用者本位のケアの実践

・職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、要望に応え、利用者に寄り添ったケアをしている。職員は、利用者との会話の中で「これが好き」「これがしたい」「歩きたい」等の要望を聞いて実現している。利用者への言葉かけが馴れ馴れしくなりすぎる場合、管理者がその都度注意喚起を促している。

提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	もえぎケアセンター平戸
ユニット名	楓

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の変動がありその都度話し合いは行っているが完全には共有出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人の福祉・介護の理念を達成するため、事業所の理念（目的）を定め、職員の目に付くようリビングに掲示している。 ・職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、要望に応え、利用者寄り添ったケアができています。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の高齢化に伴い地域へのイベント参加が難しくなっているが、日常の散歩で近隣の方とお会いした際は会釈し時折軽い会話が出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前は、もえぎ祭りに近隣の住民を招待してバザーを行ったり、自治会の公園でのイベントに参加したりできていたが、利用者の高齢化のため不可能になり、近隣を散歩のとき挨拶を交わす程度になっている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが5類になったとは言え以前のように近隣の学生さんなどを迎え入れるのは困難であり実践は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面開催により色々な情報交換が出来ている。会議で出たご意見を参考にしサービス向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、家族から利用者の希望する介助の要望が出され、ケアに反映している。 ・自治会長から自治会のイベント情報や、包括支援センターケアマネから他事業所で行なわれているサービスの実情の紹介がある。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に連絡を取り合う事はないが必要に応じて協力して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区高齢・障害支援課には運営推進会議の議事録を送っている。利用者の区分変更や更新申請で連絡している。生活支援課からは生活保護者に職員の訪問がある。包括支援センターから入所希望者の情報がある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会の開催及び職員の間での話し合い、ミーティングでの勉強会により防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会は、本社役員と事業所管理者で年4回開催している。内容は事業者管理者から職員にミーティング時に伝えている。 ・研修は管理者が講師となり、内部研修を行なっている。大声で行動を制止するスピーチロックの禁止を徹底している。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員からの疑問、質問を含めた話を聞くことで見過ごすことのないように取り組み防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会は、身体拘束防止委員会と同時に行なっている。 ・ミーティングでは、どこまでが虐待か、身体拘束との違いなどを話し合っている。 ・職員の対応が不適切と思われる際には、その場で注意をしている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度を学び理解するよう取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は出来ている。 家族からの問い合わせにはご理解いただけるように説明する事を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの運営に関する意見はない。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から、外出・外泊の要望があり、利用者の状況を考慮して許可している。合わせて、感染予防のため家族の健康状態も聞いている。 ・面会は玄関先で20分くらい行なっていたが、最近になって居室で10分程度の面会を許可した。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる、代表者、管理者会議に於いて意見、要望を伝えている。	・利用者に影響のない程度で、事務削減を図ることを話し合い、ADLの測定を1日3回から2回に変更した。 ・ミーティングでカンファレンスを行っており、業務ノートで職員に周知を図っているが、必要なことは改めて口頭で説明している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により把握して頂けている。 また、職場環境に於いても職員の意見が言い出しやすい状況を作ること心掛けている。	・人事管理は本社が行っており、管理者は評価や査定を含め職員の勤務状況を本社人事担当に報告している。 ・職員は、健康診断を年1回（夜勤者は2回）行なって、費用は会社が負担している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き学習会が行われている。出席した職員はそこで学んだ事を事業所に持ち帰りミーティング時に伝達講習を行い、個々の知識向上に繋げている。	・職員が不足しており、事業所の最大の課題となっている。年間研修計画を作成しているが、職員が参加できないことが多いため、ケアの手順をわかりやすく、マニュアル化することを考えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	様々な感染症に配慮し勉強会を行う環境を整えるよう留意している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからの一定期間は、日々の様子観察によりご本人の心配事、要望を会話の中から汲み取れるよう配慮しながら信頼関係を築き安心して暮らして頂けるよう環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居されるご本人への思い、不安に感じられるであろう事を細かくお聞きし安心してお任せして頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居をお決めになったお困りごと、入居してからの心配や不安面をお聞きし適切な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思に任せ家事作業を共有している。また入居者との日々の会話の中で職員も学べる事もあり職員同士で共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況についてご家族と連絡を取り合っており、ご家族の要望も取り入れたケアを提供していくように取り組んでいる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会は玄関先で再開している。 地域への行事参加は希望のある方について支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の成育歴や生活歴は、入所時のアセスメントで把握しており、利用者の支援に役立てている。 ・白寿を迎えた利用者が、家族と外出して、食事でお祝いをした。 ・家族の希望で自治会のイベントに参加した利用者がある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格を把握し、入居者同士が良好な関係を築けるよう食事席の配置に気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後でも相談、支援が可能である事を伝え、フォローしていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩や居室など入居者と1対1になる状況の会話の中で不安なことや要望を聞き取り職員で共有している。	・職員は、利用者との会話の中で「これが好き」「これがしたい」「歩きたい」等の要望を聞いて実現している。 ・表現困難者とは、Yes、Noで答えられる質問をして、意思の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞いたこれまでの生活歴、環境について把握する事を心掛けている。 入居前に利用していたサービスについても担当ケアマネジャーから利用内容を申し送りしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターン、都度の身体、心身状況を職員は観察し共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話の中で望んでいる事を気づき、家族の要望にも応えるよう職員間での共有、提案を話し合いケアプランに取り入れている。	・介護計画の有効期間は長期1年、短期6ヶ月として、利用者に変化があれば、その都度見直しをしている。 ・計画の見直し時期には、計画作成者と職員がモニタリングをして利用者の状況を確認をしている。家族からは電話で意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を些細なことでも記録に残し職員ノートには出勤時必ず目を通してミーティング時に話し合い介護計画に反映させられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて行事やレクリエーションを計画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々が得意な事、好きな事をして頂けるような機会をつくっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前までの主治医を希望するか訪問診療医に変えるかの選択をいただいている。 訪問診療医に変える場合でも前主治医との連携を取るよう努めている。	・全利用者が事業所の協力医による訪問診療を受けている。協力医の専門外への通院時は家族あるいは職員が付き添っている。 ・毎週の訪問看護は協力医療機関内の看護師で、医師・看護師とも24時間オンコールなので、医療面での安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時の連絡体制を整えている。24時間対応、支援を受けられるようにしている。週1回の訪問時にはそれぞれの身体状況を報告して健康相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師、ソーシャルワーカー、協力医療機関との連携を図り適切な治療を受けられ病状の把握、対応できるようになっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。重篤時には主治医、家族ともに連絡を取り可能な限りの支援を行っている。	・入居時に「看取り介護についての同意書」で説明をしている。状態の変化により、医師の判断があった場合は再度家族と話し合っている。看取りケアの際の家族の見舞いは自由にしている。今年度も看取り事例がある。	・現職員は看取りケアを理解し、本人の最期の時まで丁寧なケアをしています。今後の新入職員が看取りケアの理解をしていくために研修や勉強会をしていくことも望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	他スタッフとの連携ができ緊急時の対応の仕方について周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。夜間災害時の訓練も取り入れている。備蓄品を揃え定期的に点検を行っている。	・夜間想定を含む年2回の自主避難訓練は、同建物内の小規模多機能型事業所と合同で行なっている。 ・備蓄品はBCP（業務継続計画）ファイル内にリストがある。現在届いている備蓄品は整理して倉庫に保管する予定である。	・備蓄品は事業所内と倉庫保管にするものに分けるか検討することとしています。また、リストに賞味期限の記載がないので記載をし、適切に保管管理をすることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、声量の大きさなど日々注意している。 ご自身で出来ることには見守り尊厳を侵さないよう努めている。	・認知症ケア・プライバシー保護・法令遵守等事業所内研修で学んでいる。職員は、見守りを基本に支援をし過ぎないように心がけている。 ・利用者への言葉かけが馴れ馴れしくなりすぎる場合、管理者がその都度注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に添えるような支援を心掛けている。 入浴時間なども体調に気を付けながらご本人のペースで行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせたケアをするよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな服装を選んで頂いている。 装飾品の紛失がないよう気を付けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはあるが、なるべくお好みの料理をお出しできるようにしている。 衛生面に気を付けながら可能な方には簡単な準備をいただいている。	・これまで蓄積してきた献立を基に、職員が手作りをしている。 ・盛り付け、お盆拭き等利用者が手伝っている。 ・行事の時には利用者のリクエストを反映している。ハンバーガーとフライドポテトのファストフードは利用者皆の好物の一つである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに応じた食事内容で対応出来るような食事を提供するよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 職員による最終チェックを行い磨き残しに気を付けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛け誘導により排泄の失敗は軽減できている 昼夜バルーンであった方もトイレでの排泄に切り替われスムーズに行えている。	・支援が必要な場合、日中は定時誘導をする排泄支援をしている。 ・日中はトイレでの排泄を基本としているが、夜間帯はおむつ対応、パッド交換、ポータブルトイレ使用のほか、自分で起きてトイレに行く場合もあり、個別対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給など気を付けているが排便困難な方には主治医に相談し服薬による調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある方には時間を置いて職員の交代などで声掛けをし対応している。 長湯が好まれる方には体調に気を付けながらぬるめの湯に浸かって頂いている。	・長湯を好む場合はのぼせないよう時間を見ながら声掛けをしている。 ・自力で浴槽を跨げない場合でも湯舟で体を温められるよう職員2名で介助することもある。 ・入浴拒否があっても職員のチームワークで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後居室で休みたいとご希望する方には夜間の眠りに支障をきたさない程度に昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更にも職員は薬情書を確認し全員が理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の嗜好、娯楽を見つけられるよう努めている。散歩が困難な方にはベランダから見える景色を眺めていただいたりと気分転換を図る		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自身で希望される方は少ない。職員による散歩などの支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や近隣の店に買い物に出かけている。春には散歩がてら花見をすることもある。 ・昨年は二俣川の大池公園にお弁当を持って出かけた。 ・家族との個別外出は少人数でのほか、家族の体調も考慮して出かけてもらっている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭は所持していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話でお話しされている。年賀状など文字が書ける方には一言書いていただいている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自立出来ている方は配置を理解している。各居室の扉付近や共同フロアーなどに季節の飾り付けをし居心地の良くなるような空間づくりを心掛けている。	・清掃・換気・各所の消毒等はコロナ禍の対応を継続している。 ・リビングには今の季節の作品を飾り、廊下には年間を通し利用者で作った制作品を展示している。 ・テレビを観たり、職員や女性利用者同士の会話も楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大半の方が共用の場で過ごすことが出来ている。 テレビを視聴されたり、職員や女性同士などで会話を楽しまれたり様々に自由に居られる空間を作るように努めている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込まれた思い出の品など今も大切にされている。	・位牌、友人たちとの集合写真、絵画等持ち込み、入居後も大切にしている。ベッドやタンス等、退去者の寄贈品も活用している。 ・居室担当職員を中心に整理整頓、衣替え、不足品の確認等居心地よく過ごす支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの行動範囲に合わせた導線を確認している。 安全には注意深く配慮をし自立した生活が送れるように努めている。			

目標達成計画

事業所名 もえぎケアセンター平戸

作成日 令和 年 月 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		看取りケアについて職員の知識や意識が薄い	入居者が自分らしく過ごせる事を重視し本人、家族の希望に寄り添い尊厳をもって最期を迎えられる。	・清潔な環境維持 ・看取りケアを理解する為の研修を行う。	3ヶ月
2		備蓄品の収納スペースが定まっていない	発災直後から活用出来るように食料品、毛布などの防寒対策品、衛生用品必要な物資を備蓄する	備蓄品を置く場所の確保及び一目で分かるように賞味期限の記載	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。